

明石市財政及び公共施設のあり方に関する検討会(公共施設第1回) 議事要旨

日 時	2025年(令和7年)6月1日(日) 13:00~15:30	
場 所	明石市役所本庁舎8階 806会議室	
出席者	石原会長、石山委員、齊藤委員、岡平委員、河田委員、瀬能委員、森田委員 小田委員、増田委員 ※楠目委員欠席	
議 事	【報告事項】 (1) 計画の改定概要 (2) 第1期計画の検証 【審議事項】 (3) 第2期計画の方針案(基本的な取組方針)	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第、座席表 ・(仮称)公共施設配置適正化計画の改定概要 資料1 ・明石市公共施設配置適正化基本計画・実行計画(第1期)の検証 資料2 ・(仮称)公共施設配置適正化計画(第2期)の策定方針案(基本的な取組方針) 資料3 ・委員名簿 参考資料1 ・検討会設置要綱 参考資料2 ・明石市公共施設配置適正化基本計画(2015年3月) 参考資料3 ・明石市公共施設配置適正化実行計画(2017年3月) 参考資料4 ・明石市公共施設配置適正化基本計画(2022年3月追補版) 参考資料5 ・みんなの財政白書あかし2024 参考資料6 ・公共施設アンケート・チラシ 参考資料7 	
事務局	総務局財務室財務担当(公共施設担当)	

1 開 会

2 市長挨拶

- ・ 昨年度に引き続きお世話になることを心から御礼申し上げたい。
- ・ 委員の皆様のおかげで昨年度は素晴らしい「みんなの財政白書あかし」が完成した。市民の方に大変好評で、多くの方から高い評価をいただいております。これからのまちづくりの様々な場面、学校教育などでも活用していきたいし、1回作って終わりではなく毎年しっかりと数字を更新していく。多くの市民の皆様にも明石のお財布事情を知っていただくきっかけとなった。
- ・ 公共施設配置適正化計画については、中長期の視点から公共施設の効率的・効果的な配置を定めて、各施設の総合的な管理を行うことにより将来的に持続可能な施設運営を図ることを目的としている。

- ・ 今回の検討会は、2015年から10年間の第1期計画が終了し、第1期計画の取組結果の検証、そしてそれを踏まえた見直しを行うということで、今後10年間の第2期計画を策定いただくもの。
- ・ 日々の暮らしやまちづくりに欠かせない、学校施設または文化スポーツ施設などの公共施設がたくさんあるが、老朽化への対応は全国的な共通課題となっている。SDGs未来安心都市明石の実現に向けては、持続可能な財政運営が前提となり、この財政運営においては公共施設の維持更新に伴う財政負担は大きな課題なので、収支見込や人口動態を踏まえ、全ての施設を同じように維持は難しいが、優先順位をつけながら対応していく必要があると考えている。
- ・ 大変重要な課題なので、委員の皆様には是非1年間よろしく願いたい。

3 会長挨拶

- ・ 昨年度に引き続き、委員の皆さまから積極的にご意見いただくようお願いしたい。

4 議事

(1)計画の改定概要

※事務局から資料説明 (資料1)

(2)第1期計画の検証

※事務局から資料説明 (資料2)

[質疑応答]

(A委員)

- ・ 第1期の検証でほとんどの施設が○で評価されており、△は明石駅前立体駐車場くらいしか印象に残らなかった。今年度検討していくにあたり、個別の施設1つずつを議論していくのか、それとも全体的なところで議論していくのか、どういった方向性で我々はこの検討会に臨むべきかが分からないので事務局の考えを教えて欲しい。

(事務局)

- ・ 全体的な部分はこの後の審議事項で委員の皆さんと話していきたいと考えているが、個別の施設については、第1期で施設配置適正化等の取組を一定終えた施設を除いて、改めて第2期に重点的に取り組む施設を設定したい。あわせて、1期、2期の計画にはなかったが、新たに検討したほうがいい施設があればそちらも重点施設の設定をしたいと考えている。
- ・ かなりの施設数になるが、卸売市場のように別の会議体で検討をしているものが含まれたり、学校であればすぐに統廃合という現状ではないので、特に委員の皆さんに検討いただきたい施設を示すとともに、今後施設所管課の職員も出席して検討を進めていきたい。

(B委員)

- ・ 10年前の当初計画策定時点で、第1期の10年での施設総量(延床面積)の縮減目標を

3%減と設定したのはなぜか。

- ・ 結果的には2.1%増となったが、達成可能な目標設定だったのか。

(事務局)

- ・ 施設の改修に要した経費と今後見込まれる経費の差額を算出し、40年間で約2,000億円費用が不足すると見込み、それらを解消するためには40年間で30%施設を縮減する必要があるという試算を行い、計画の最初の10年においては、施設の見直しや縮減を行うに当たり、市民の皆さんにお知らせする期間も必要であることなどから、目標値を3%減と設定した。
- ・ 目標値の設定当時は、市の基金が減ってきている状況で、財政健全化推進協議会というものを立ち上げて、事業を見直して縮小の方向に進める全体の流れの中で公共施設配置適正化計画を作ったが、前市長がこども政策へと重点をシフトして人口も増えていく中で、中核市移行もあり、施設総量が結果として増えたものだが、計画策定時点においては、3%縮減が達成可能との見立てがあった。

(C委員)

- ・ 計画目標が第1期で施設総量3%減に対し、実績として2.1%増えてしまった状況があるが、第1期の検証シートでは◎や○の評価が多く、第1期をどう評価すべきかが分かりづらい。計画目標に焦点を当てると計画が順調に進んでいない評価となるが、中核市移行など計画を当初作成した時点と状況が変わっている中で仕方なかったという見方もあるかもしれない。そういった中で、検証シートにおける第1期評価の◎○△が何に対しての評価なのか分からない。例えば、計画全体の3%縮減という目標に対して、実際に縮減できたということの評価しているのか、各施設の取組方針に対する評価なのか。どういった基準で評価したのか分からないと第2期の検討を始める上で議論づらい。第1期の取組は無視してゼロから考えようというのもありとは思いますが。
- ・ 施設総量が増えている件については、他自治体でも見られるが、建替や集約化後に不要となった施設を除却できず、そこに対してコストもかかっている状況があるのかなど、もう少し委員会で検討する材料が欲しい。

(事務局)

- ・ 第1期をどう評価するかについて、個別施設の◎○△等の評価は、当時設定していた施設の取組方針を実施できたかどうかの評価となっており、施設総量の3%縮減とは別の観点である。第2期の目標等を検討するにあたり、新たな基準を設けても構わないと考えており、個別施設の取組方針をどのように評価するか一定の基準を決めておく必要があり、そういった検討も今後できればと考えている。
- ・ 第1期に集約化等を行ったが除却できていない施設について、例えば少年自然の家は今も残ったままで、地域から早く除却してもらいたいという意見を受けている。国の財政支援も活用しながら取り組みを進めていきたいと考えているが、除却費用が相当な額となる見込みで、現在民間提案制度で施設の利活用提案も求めており、地域の意向も踏まえながら現在検討しているところである。

(事務局)

- ・ 施設総量の増加について、こどもを核としたまちづくりや中核市移行といった明石市としての大きなまちづくりの転換があった。まちづくりの観点では施設の増加は一定仕方なかったと思っているが、公共施設配置適正化計画としては未達を重く受けとめている。
- ・ 各個別施設の評価の部分については、第1期の取組方針で掲げていた内容をどの程度できたのか、今後どうなる見込みかといった観点から評価している。また、第1期の取組をゼロとして第2期として改めて考えるかは、計画策定当時は人口減が大きく進み、財政も急激に悪化して基金が枯渇する見込みだったのに対し、現在の人口増、財政の状況等も踏まえて改めて現実的な目標を立てたいと考えている。第1期の結果も踏まえて検討したく、この後の審議事項の中でまずは案をお示ししたい。

(C委員)

- ・ 各個別施設の目標を達成しても、市全体として捉えたときに本当に望ましい方向に向かうかは難しいところ。個別施設が馴染まない場合もあるかもしれないが、まずは市全体の方向性をどうするのか、目標値や考え方、方針を決定したほうがいいのではないか。
- ・ 今回、公共施設担当課長や施設包括管理担当課長が検討会に出席しており、市として公共施設に力を入れるという話だと思う。やはり全体的な方針は必要であり、各施設をそれぞれで進めると、市として同じ方向に向かわないこともあるので今後検討いただきたい。

(D委員)

- ・ 第1期の評価は各施設担当課が自己評価したのか、それとも公共施設担当課として財務担当が評価したのか。
- ・ 第1期の評価で△が2施設あったが、評価を受けて第2期は別の方向性で進むのか。

(事務局)

- ・ 基本的には担当課の自己評価を基にしている。
- ・ △の施設は、第1期で取組が十分に実施できなかったもので重点的に第2期も取り組みを実施したいと考えている。

(E委員)

- ・ 担当課の評価と財務担当の評価の齟齬はあったのか。基本的な評価の方向性は同じだったと理解してよいのか。

(事務局)

- ・ 担当課の評価に対して財務室として公共施設全体を俯瞰的に見て、事前に担当課とやりとりした上での評価である。

(会長)

- ・ 新しく財政白書も作った中で、今後の検討会における議論のポイント絞りを考えていく必要がある。例えば第1期の検証シートでいうと、生涯学習センターとか男女共同参画セ

ンターのように利用者が増加し費用も増えている傾向が見られるものと、市民会館のように利用者がかなり減少して費用も減少している施設もある。そういったものを整理しつつどう議論を絞っていくか考えたい。もちろん一番いいのは全ての施設を継続できる財源があれば問題ないが、おそらく極めて困難だと思われるので、コスト情報と指標で検討していく必要がある。

- ・ そういった観点で検証シートを整理し、委員の皆様判断いただける整理を2回目の検討会で行っていただけたらもう少し議論がしやすい。
- ・ 小中学校コミセンは代替がきかない施設である一方、会議室の稼働率は全般的に低く、類似の会議室が市内の他施設であるのではないか。
- ・ 市民会館の中ホールの稼働率が低いですが、類似施設があるのか、ないのであれば市民サービスを下げずに重複してる施設の削減を図ることができるのかなど、ストーリーを考えて個別の検証シートを整理するといろんなものが見えてくる。また、明石市の場合、中ホールに比べると大ホールの稼働率が高くなっているが、大ホールの稼働率を上げるために、例えば中ホールでできることを大ホールでやってもらうなど、稼働率が低いのであればお金にならなくても、市民の満足度が高まる活用方法を考えるとか、そういった要素を多面的に整理して、最終的には極力市民サービスを減らさずに財政の健全性を堅持できるように、施設の統廃合や民営化等を検討するためにこのシートを活用できればと思う。

(F委員)

- ・ 公共施設配置適正化計画の検討対象に道路や水道等のインフラは入るのか。これからインフラも寿命が来てしまうので、補修等のコストが上がる部分も併せて見せてもらえるとう分かりやすい。
- ・ コスト削減の話はどうしてもネガティブな印象となるが、例えば私が住んでる地域で去年水道管を全部掘り起こして、新しいものに変えていただいた際にすごく安心感があり、掘り起こされた水道管を見て、現状もよく分かったというのがあったので、稼働率の低い貸会議室よりも、やっぱりこういうインフラにお金をかけないといけないし、その財源が足りないから施設を見直すという説明であれば市民も分かりやすいのでは。
- ・ ごみ処理施設は今回の議論には含まれないのかも気になっており、個別施設も大事だがやはり市の全体像を市民としても見ていきたいので、様々な事業の兼ね合いと併せて説明いただけたら、納得感も理解も得やすいと思う。

(会長)

- ・ 公共施設の定義は資料1にあるように、いわゆるハコモノとインフラに分かれている。インフラはなくなったら市民の皆さんが困るので基本的に削減の議論はなく、長寿命化を進めて、コストをできるだけ引き下げる方針となっており、そのために、例えば上下水道管であれば傷んでいるところをできるだけ緻密な技術で見つけて補修していくことになる。
- ・ 一方、例えば人口が減ったり、財源が非常に厳しい中でインフラにお金がかかるとハコモノに充てるお金がなくなり、ハコモノを削らざるを得なくなる。利用者が少ないハコモノや利用者はあっても膨大な費用がかかっているハコモノを検討する必要がある。また、利用者1人当たりで費用がかかっているということは、中立性とか公平性を考えると議論の余地があるということが先程の事務局説明であったと思うがもう一度説明してほしい。

(事務局)

- ・ ハコモノとインフラは計画の対象施設となっており、次の審議事項でも出てくるが、過去と今後に見込んでいるインフラの経費はそれほど大きな差がなく、基本的にはインフラは今ある施設を大切に使うという方針で更新費用も含めた見積を行っている。
- ・ 施設総量は、現状ハコモノのみを対象としている。インフラについては、すべてを正確に把握することが難しいといった要素もあるので、もし施設総量の算出方法のご意見をいただけるようなら参考にしたい。
- ・ 今後、新庁舎に続いて新ごみ処理施設の建設といった大きな投資予定もあるので、ごみ処理施設も対象に入れている。

(会長)

- ・ インフラについて、新しい道路やトンネル等を諦めて、今あるものを全部維持しましょうと考えたとしても、インフラが老朽化していく中で当然補修にお金が必要となる。他の福祉や職員の人件費、公債費など様々な支出が必要となり、毎年度使用できる投資的経費の金額は大体決まってくる。投資的経費について100億円の規模を今後30年維持すると言っても、全ての施設が一斉に古くなるためこの100億円でインフラのメンテナンスがまかないきれなくなることが見えており非常に積算は難しい。目の前に見えているごみ焼却施設は試算にカウントされているが、道路とか橋梁、トンネル、上下水道の補修費用はおそらくもっと増えていくと思われるが試算に含み切れない部分がある。
- ・ ハコモノ施設は、いざ廃止するとなると市民から普段使ってるので使い続けたいという圧は出やすいが、最終的にどういう方向性で今後の取組を進めたら良いか、この委員会で市の皆さんに提示できれば。

(事務局)

- ・ 上下水道は今後の投資計画について経営戦略という別途計画があり、収支の部分をどうするか、例えば水道料金をどうするかといった議論も経営戦略に基づいて、企業会計において別途審議会で議論している。
- ・ 公共施設配置適正化計画はまずはハコモノに主眼をあてて、施設総量等の議論を行っていくが、施設の現状を計画内で示す中にインフラ等も含まれるので、市民に分かりやすくお示しする観点は大切と思っている。第1期も公共施設のハコモノの部分に主眼をあてて策定しており、第2期もここを主眼に進めていければと考えている。

(F委員)

- ・ 市民としては削減したお金をどこに充てるのか、何のために取組を行っているのか情報が欲しい。ポジティブに今後検討したいと考えており、お金がないから節約してこうというより明るい未来のため、必要なところに使うために取組を進めようという方が理解しやすい。

(G委員)

- ・ 今回第1期の結果として、目標が3%縮減に対し2.1%の増加となっており、第2期15%

縮減、第4期に30%縮減を目標としていたが、2.1%の増加という結果を踏まえて、第2期は何%縮減するといった目標はあるのか。

(事務局)

- ・ 第2期の目標は次の審議事項で説明させていただきたい。今回、2.1%増えたという結果を受けて、次に繋がるような目標を改めて設定したい。

(H委員)

- ・ インフラは絶対必要なので、今回はハコモノに主眼をとという説明は非常に理解しやすかった。今日の資料だけでは理解が難しく、個別施設の検証シートの◎○△が何を指すのか、計画目標が延床面積の数値であれば、そことリンクする数値目標を設定するのか、このあたりを整理してほしい。
- ・ 施設運営費の見直しで、明石市は3つの取組で20億円の削減効果を生み出したとあるが、施設包括管理、電力ガスの一括調達、公共施設のLED化はすごいことで市民として感謝しないといけないのではないかと思った。
- ・ 財政白書で今は財政状況が良い、貯金はこれだけあると示している中で、前回の検討会が終わったタイミングで新庁舎の建替費用が決まったとか、新ごみ処理施設の予算がいくらという情報が出ており、これからの明石市の財政を考えていくにあたってより市民に分かりやすく説明をしないといけないし、これから毎年財政白書の数値を更新する中で数年後には赤字が出る収支見込が出ているが、そういった部分を市民も考えて、節約できるところは節約していく認識を持たないといけないと思った。

(3)第2期計画の方針案(基本的な取組方針)

※事務局から資料説明(資料3)

[質疑応答]

(会長)

- ・ 計画の目標として2%や4%といった削減目標案が出ているが、施設総量の延床面積で考えていく時に財政白書とのリンクを意識しておかないといけない。物価高騰で指定管理の費用なども上がると思うので、例えば施設総量を2%や4%削減した場合でも、財政面がしんどくなったとなると少し辛いので、計画目標を面積で設定することについて、そのリスクの部分を特に議会や市民の皆様にご理解いただく必要があると思う。

(B委員)

- ・ 10年前の計画策定時は3%の削減目標の根拠として、コスト面から40年間で2,000億円不足する見込なので30%削減しなければいけないという部分があったので、どこかにコスト面の評価の記載もあった方がいいのではないか。
- ・ 施設の管理運営面で削減効果を出したことが表に出ないのも寂しいので、例えば施設包括管理で出たメリットや広域連携など、ソフト面でも取組を進めることで40年後に向けた施設総量の縮減に貢献していることが分かる目標設定とした方がいいのではないか。

- ・ 人口の増減や財政状況の変化で、40年後に30%縮減しなければいけない見通しは大きく変わっていないのか。

(事務局)

- ・ 計画期間は残り30年となっているが、大体同じぐらいの数字になると見込んでいる。

(D委員)

- ・ 先程もっと前向きな議論をしたいと話があったが、明石市はどのようなまちを目指し、そこに向かっていくためにどう施設を配置するのか、まちづくりの観点からの最適化を考えたほうが前向きだと思う。
- ・ 市民ニーズというキーワードも出てきたが、施設が市民のニーズに応えるためには施設整備も重要だが、どういった職員が配置されているかも大事なので、例えば男女共同参画センターであればジェンダーの専門知識がある職員が配置されているかなど、施設の稼働率だけではなくニーズにどの程度応えられるかという観点から検討してはどうか。

(A委員)

- ・ 施設の機能面や具体的数値等から議論がスタートしており、もちろん理解するのはすごく大事だが、我々が委員として入っている意味を考えたときに、市民一人ひとりがどう生きていくかの視点がすごく大事だと思っている。人口減の状況や具体的数値から計画内容を検討していく雰囲気は本日時点で感じたが、次回以降は、抽象度の高いビジョンから徐々に具体的に落とし込み、数値目標も整合性を取れるよう検討することが良い方向性ではないか。
- ・ 具体的にどのように検討するかの部分で、こどもを核としたまちづくりという市の方針があったが、SDGs未来安心都市・明石というのが戦略の柱としてある中で、この部分を委員で共有して勉強した上で市民一人ひとりがどう生きていくのか、施設のあり方をどうするのかといった進め方にすると、納得感や前向き感が出てくるように感じた。

(会長)

- ・ 個別の検証シートについて、例えばSDGsの17のアイコンを入れてみるとか、市民の皆さんにSDGsを意識いただき、委員からもコメントいただけるようにしてはどうか。
- ・ 公共施設アンケートも大きな包括的な視点ではないが、それに近い種類の取組だと思うので、アンケートで出た意見なども少し整理いただいて、2回目の検討会の資料にしてもらえたらと思う。

(C委員)

- ・ 資料3の9ページなどにある数値が、物価高騰の要素を含んでいるのかどうかは少し気になる。
- ・ 資料3の10ページ以降、どのように今後対応していくかについては、施設総量の縮減は避けられない部分があると思う。圧縮でなくとも、市が全部施設を保有するというのは難しいというのもその通りだと思うが、委員の皆さんがおっしゃっているような明るいメッセージという部分で発言すると、公共施設マネジメントの世界は今縮充といった言葉が

流行っており、施設を縮小、縮減していく中で市民の暮らしは充実させていくというメッセージが大事となっているので、施設の複合化といった取組も資料で書かれているが、明るい未来に繋がっているという要素はあまり見えないように感じたので、縮小していく中でもサービス面や市民の満足度は落とさないよう努力していくんだという方針がうまく表現できたらより良いのではないかな。

- ・ 施設をこのまま残すという選択肢もないわけじゃないと思う。そのためには、財源が不足するため、新たに市民に税負担してもらおうとか、利用料を上げるとか、色々な選択肢が考えられる。今回の公共施設アンケートでそこまでは聞いてないと思うが、今のまま施設を保持していくのであれば、税を上げるとか料金を上げるといった選択肢と縮小しつつサービスに関しては落とさないよう努力するといった選択肢をあげると、市民はやはり負担を増やしたくないという回答が多く、ただ縮減しながらもサービスを充実させて町の明るさは失わないようにしたいといった結果が得られることが多かったりするので、市民の負担を考えると、こういった選択肢が考えられるといった部分を見せられれば市民の納得も得やすく、また明るい未来をそこに描けるようなメッセージ性もすごく重要というふうにしたので、またそのあたりも今後ご検討いただきたい。

(会長)

- ・ 明るい未来やメッセージの部分は意見で多く出ている。また、具体的に職員の意識改革のことも書かれていたが、公の施設に専門的な知見の高い方、或いは経験豊富な方を置くとか、計画の範囲では難しい部分もあるものの、委員からそういった声があったことは議事録に残して市で共有していただけたら。

(C委員)

- ・ 個別施設の検証シートについて、コスト情報の収入と管理運営費の欄がある、例えば、市民会館だと、収入が市にも指定管理者にも計上されているようだが、指定管理者の収入は市にそのまま入っているのか、それぞれ協定に基づき事務を行っている部分があるので少し分かりにくい。
- ・ 管理運営費も同様で、市から指定管理者に払った指定管理料がどのようになっているのかなど分かりづらいので、この検証シート自体に何が書いてあるかを説明するシートが最初に1枚あってもいいのでは。資産老朽化比率と言われても、市民の方はあまり馴染みがない言葉なので専門的な用語が何を指すのか、1枚資料を用意して示しても良いのではないかな。

5 その他(事務連絡)

6 閉会